

平成27年4月14日

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

| | | |
|--|----------------------------|-----------|
| 教育機関名 富山大学 | 助成金額： | 750千円 |
| 研究代表者： 木村 裕三 | 所属：富山大学大学院医学薬学研究部 (医学系) | 職位： 教授 |
| 研究題目：高等学校英語教育の卓越性とそれを読み解く第二言語習得動機づけ理論の 関係に関する基礎研究 | | |

【研究概要】

富山国際大学附属高等学校の英語カリキュラムは全国的にも極めてユニークで高度な事例である。PBL (Project-based Learning) 型英語教育とよばれるカリキュラムで、グループ学習を通してプロジェクトを英語で遂行し、成果をクラスで英語発表するという一連の過程を通して英語の四技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を効率良く高めることを目標としている。特に、英語コースの入学生徒に対し全員に iPad mini を携帯させ、H25年度入学より英語教育に斬新かつ先駆的な実践を導入している。例えば、1年次生のPBL型英語教育の核科目である英語Ⅰでは、ワン・ローレンス教諭が教科書のレシテーション（暗誦）、語彙テスト、精読を基盤活動としつつ、独自に開発したアプリを使ったペア活動と Google ドライブ介したプロジェクトの実施を通じて、新たな英語教育実践へ挑んでいる。このような授業実践がなぜ生徒の英語学習への強い動機づけに繋がっているのかをさらに長期的に分析・探究し解明することは、富山県下高等学校の学校英語教育の「強み」を科学的に究明することに他ならず、富山県下英語教育の活性化という視点から極めて大きな貢献が期待できる。

本研究では、富山国際大学附属高等学校2-1組国際コース英語Ⅱ担当のワン・ローレンス教諭のPBL型英語教育実践を本助成金受給期間中1年間参与観察し、その実践を元に、ローレンス教諭とフォーカス・グループの3名の同高等学校2年生生徒に合計5回の半構造化インタビューを実施し、その発話データを質的データ解釈分析ソフト NVivo 10 を援用しつつ、生徒がなぜ、どのようにローレンス教諭のPBL型英語授業に動機付けられているのかを、2つの最新の動機付け理論を使って解釈した。使用した動機付け理論は、複雑系理論と、活動理論である。

【成果要約】

①3名の生徒は、H25年4月入学当初からH25年12月にかけて、iPadという新しい道具の魅力に動機付けられていたが、H26年5月の時点では一変してiPadの不便さと紙媒体による学習への価値の回帰を指摘し始めた。しかし、H27年12月、iPadの価値と紙媒体による学習の価値のそれぞれに意義を見出し、調和の取れた動機付けを形成するに至った。この一連の変遷を、複雑系理論と活動理論で解釈した。その結果、双方の理論による解釈とも3名の生徒の動機の変遷を明瞭に説明する事が出来た。

②3名の生徒の担任（英語）が担当する別の英語授業について、生徒はローレンス教諭のPBL型英語授業とは異なる意義を表明し、ローレンス教諭の授業と同程度に動機付けられていることが判明した。この事実を上記2つの理論で解釈した。その結果、複雑系理論では2名の教師の授業が生徒をそれぞれ独自に惹きつけており、その状態によって生徒の動機が更に安定したものになっていると解釈された。一方、活動理論では、2名の教師の実践は媒介する道具としてのみ解釈されるに留まった。

③H26年12月からH27年3月にかけて実施された2つのプロジェクト（コマーシャルプロジェクトと映画プロジェクト）で、3名の生徒のうち、2名はこのプロジェクトに強く惹きつけられた。一方、残る1名の生徒は、コマーシャルプロジェクトに最も強く惹きつけられたものの、映画プロジェクトの動機づけは、他の2名の生徒より低かったことが判明した。複雑系理論による解釈では、2名の生徒と残る1名の生徒のアトラクター状態（惹きつけられている状態）に差異があることが判明した。一方、活動理論による解釈では、1名の生徒の動機づけが、他の2名の生徒の動機づけに媒介的影響を与えていることが判明した。

(別添資料)

| | | | |
|--------------|--|---------|------------------------------------|
| 研究成果 発表状況 | 【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成した Web ページ, 産業財産権 (特許権等) の出願・取得状況について記入】 【学会発表 1】 Kimura, Y. (2014, August). <i>Two Different Pathways of L2 Motivation? From AT and DST Perspectives</i> . Paper presented at International Applied Linguistics Association (AILA) World Congress, Brisbane Australia. 【学会発表 2】 Kimura, Y. (2015, March). <i>Two Different Pathways of L2 Motivation?: Further Analysis in AT and DST Perspectives</i> . Paper presented at American Association of Applied Linguistics (AAAL), Toronto Canada. | | |
| 経費の 執行状況 | 区分 | 執行額 (円) | 備考 |
| | 【物品費】 研究成果発表のための海外学会参加費 | 60,787 | AILA World Congress 参加費 |
| | SD カード | 18,437 | 授業撮影用メモリ |
| | 【旅費】 研究成果発表 | 287,166 | AILA World Congress での研究成果発表のための旅費 |
| | 研究成果発表 | 383,610 | AAAL での研究成果発表のための旅費 |
| | | 750,000 | |